広報
こすど

発行所
小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行編集人 矢部藤三郎

本年度公民館事業計画と予算

運営審議会記録から

五月十日、午後一時半より、三十五年度最後の公民館運営審議会が公民館で開かれた。

宮崎館長司会で、三十五年度決算、事業報告ならびに三十六年度予算、事業計画等について、別表の通り審議されたが、本年度は館長ならびに審議員の改選期なので、今年度の事業計画等については、大まかなところを決め、新役員から大いに斬新的なものをとり入れていたゞき、あらためて審議していたゞくことになっている。

話題の中心となったものは、グループ活動のもりあげを通しての社会教育の活発化についてであった。

公民館活動は、社会教育、文化活動の綜合的な基点として行わなければならないのだが、壁につき当りマンネリズムにおち入っている感がある。それにはいろ〳〵な条件もあろうが、その目的達成のためには、諸団体やグループ活動を通しておしひろめていかなければならない。そこで、まずいろいろなグループがお互いを知りあうために、座談会をひらいた上で、他町村で実際に成果をあげているところの指導者をまねいて、運営の講習会を開く等の方法を大いに考えたらどうかという意見であった。六月に予定したグループリーダー講習会がそれである。

予算面では、昨年よりいくらか増額されているが、諸団体やグループ活動の育成にはどうしても予算が必要である。

例年開かれている柔剣道大会や卓球大会の場合など大さわぎして寄付をもらい歩いているが、これなどは当然とるべきである。なおなん回かつゞいてきた町民芸能大会開催には、大会後の反省会などにも異論があつたので後日話し合いの上でということで一応保留とすることになった。

昭和36年小須戸町公民館 事業計画

月	事業名	共催その他
4		町民魚釣大会（愛鱗会）
5	高血圧について	
6	栄養料理実習会（保健所）	五頭登山会（山岳会）
	高血圧の食事について	
	歯による人体の影響	写生席書大会（美術同人会）
	社会見学（三川鉱山）	
	グループリーダー講習	
7	ふとん作り講習会	キャンプ（山岳会）
	時局講演会	
8	講演会（非行青年問題）	囲碁将棋大会（囲碁将棋クラブ）
	町民運動会	
9	ふとん作り講習会（会場移動）	
	栄養料理講習会	
	歯の講演会	
10	時局講演会	町民魚釣大会（愛鱗会）
	経済講演会	ごまどう月見（山岳会）
11	文化祭	職場バレー大会（体育協会）
	秋の漬物講習	
12	冬の健康について	
1		職場卓球大会（体育協会） 囲碁将棋大会（囲碁将棋クラブ）
2 3	講演会（幼児問題）	
	○毎月の定例事業 広報発行 図書借出し 巡回映画	山岳会 愛鱗会 商工会 料理グループ 美術同人会 囲碁将棋クラブ 婦人会 青年団 体育協会 俳句同好会 農業組合

昭和36年度小須戸町公民館 予算

総額	804,300		
報酬	88,500	主事兼任年報酬 館長年報酬 副館長 〃 分館長 〃 〃主事 〃 審議員 〃	48,000 3,500 2,500 2,000 2,000 800
旅費	28,000	費用弁償 役職員旅費	18,000 10,000
需用費	499,600		
報償	64,500	講師謝礼 文化祭報償費 運動会 〃	15,000 33,000 16,500
賃金	6,000	人夫賃 シ尿汲取人夫費	3,000 3,000
消耗	57,500	事務消耗費 運動会〃 図書〃	44,000 35,000 10,000
燃料	27,500	木炭及煉炭代	
食糧	8,000	会議及来客用接待費	
印刷	130,000	広報印刷 諸印刷費 文化祭賞状印刷費	120,000 3,000 7,000
光熱	21,600	電灯料 水道料	
通信	7,500	郵便料及フイルム送料	
借料	2,000	借地料	
委託	30,000	広報事務委託費 図書 〃 視聴覚 〃	10,000 10,000 10,000
修繕	5,000	備品修繕料	
備品	140,000	図書購入費 視聴覚教具費 一般備品	100,000 30,000 10,000
交際	10,000	館長交際費	
負担金 交付金	168,200	分館活動費 郡公連負担金 その他 〃 クラブ活動奨励費 外灯撤水費	140,000 7,200 7,800 10,000 3,200
修繕	10,000	館内外修繕料	

論壇

議会と傍聴

渡辺助一郎

国会から地方議会にいたるまでせまい国内でも議会制度は、無数にあり年中頻繁に会議が催されている。人間社会の公的な話し合いの場として、尊重され権威を持たせられていることは、各位とも御承知の訳である。この話し合いの仲間入り（代表者を決める）するために、年中どこかで選挙が行われ血眼になって議席が争われている。結果的には違反を詰問され、汚職にまきこまれ言動暴力に走って世の人の批判を受けながらも、議会人になることに魅力があるらしい。住民代表になり議席を持っても人間である限り咽喉と低姿勢を忘却して、やゝもすると不勉強の割合に高姿勢（いばりくさる）になったり、特権にアグラをかく徒輩が案外多いのではないだろうか。住民の側では日夜斯る人物とその者を含めた議会の決定にヒンシュクしつつも、いっこうに監視しようとしない。なにか割切れない不可思議さを感じるのは私のみであろうか。単なる見物もあろうが国会、県会については開会中かなりの傍聴者もあり、政策審議の生まゝの姿を見聞きしているようにうかがえるが、市町村議会では政争の激しい自治体の場合か特別問題でもない限りどこでも傍聴が少い、むしろ皆無の場合すらあると聞いている。

これで明朗な施政を望むことに矛盾がないだろうか。選挙になると住民も候補者も烈しく争っても立派な公約を述べ、忠実なる代弁者たらんことを誓って議会人が生まれ、議会が構成されたあとは自分達の身近かなものとは感じなくなるんだろうか。イギリスでは年寄が三人よると政治を語ると聞くが全く淡しい。私は町民に接することも多いが十人に一人でも町政面での質問も意見も聞けない。ときどき依頼された照会される事項もあるが、ほとんど行政面の窓口的な事項が多い。もっとも役場の窓口応接にも多分に問題がありそうだが、担当吏員諸公の猛省を促したい。もちろん何事に依らず御相談を歓迎し中継することにやぶさかではないが、希くば首長の町発展と向上策、今の町で大きな問題はなにか、議会の空気は？といった大局的な意見や質問、検討をし合って貰いたいと常に思っている。

そこで標題に戻るが議員個々に接して地域社会の政治意識をたかめることも意義はあるが、半面また堂々と議場に入り直接首長の見解を確め、議員審議態度を通じて大勢を判断されることが、住民の権利であり義務であることとの自覚にたって欲しいことが私の主張である。私の乏しい経験からいって傍聴者が議場につめかけた場合の議会は浄化されたムードが作られ理事者も議員も本来の真摯な姿に遡るように感じられるがどうであろうか。ただその日の議案が地域住民の利害につながる場合、傍聴者が賛否の圧力となする場面が多い。しかしながら議員たる者は地域代表ではないので全体の奉仕利害に立脚すべきは言をまたない。

また多数の議員の中にはスタンドプレーを演ずるやに見受けられるむきも皆無ではないが、傍聴される方はメッキは必ずはげるものである。古諺に従って真偽を誤たんで頂くこと、猶一年中に幾月もない議会開会中は多数の町民各位が傍聴されて監視、協力されることを切望したい。明日の町政を明朗化するためにも、次の代表を選ぶためにも大切であろう。

五月十二日付読売新聞女性の声の欄に「町議会傍聴にでかけよう」の一主婦の意見に共鳴し、議席を持つ立場から愚見を申し上げたしたいである。

主婦の意見を要約すると始めて議会を傍聴して認識を新たにしたこと、理事者、議員の勤務評定ができたこと、傍聴者に刺激されてその日の議会は活発な議論に終始してかなりの成果であったと県議員自からかたっていたということ。

今後もときどき傍聴して生活に直接つながる町政を、議員と連絡をとりながら育成しなければならぬと痛感したという内容であった。

国民年金

保険料納入について

国民年金保険料の納入が今年四月より開始され、現在役場で受付中であります。

すでに加入の届出を済ませ被保険者となり国民年金手帳の交付を受けて居る人で未だ保険料をお納めにならない方は四、五、六月の三ヶ月分は是非共六月中にお納め下さる様お願い致します。

被保険者の中には保険料の納入は電気や水道料の如く係員が戸別に廻って集金するのではないかと言う様なお考えになっておられる方も見受けられますが、現在の所いろいろの事情もあって早急に実施する見とおしも付き兼ねるので、組織の完備する迄暫らくの間被保険者より役場の窓口にお納めに来て頂く様お願い致します。

◎保険料の意義

国民年金は拠出制を立前としておりますので保険料の納入実績は将来あなたの年金額を決定する際の大切な条件となります。依って保険料納入期間が長ければ長い程年金額も増加する仕組になっておりますから是非共未納することなく納入下さる様お進め致します。

◎保険料の免除

前に説明したとおり保険料は是非共納めなければなりませんが、所得が少いとか、不慮の災害に会ってどうしても納めることが困難の状態にある人は申請をして許可になれば申請した月からその年度の終りの月迄の保険料は納めなくてもよいことになります。

此の場合将来年金を受ける際の条件から多少除かれますが、補完的の福祉年金、いわゆる老令福祉年金、母子福祉年金、準母子福祉年金、障害福祉年金の各年金を受ける時の条件となりますので納めるに困難の状態にある人は未納することなく必ず免除の手続をなされる様お進め致します。

◎手続を取らないと

国民年金強制加入の適用者であり乍ら加入の届出をしなかったり、保険料免除の手続を怠って未納した人は結局自分で自分の権利を失うことになります。

例えば加入の届出もせず保険料も未納で過した人は七十才になって支給される老令福祉年金も受けられず、又不幸にして働手の主人が重度の障害を受けたとか、死亡した場合残された妻子、母、兄弟姉妹、孫等に支給される各種の補完的福祉年金が受けられないことになりますから未加入の方は一人残らず必ず国民年金の届出をなさる様お願い致します。

（役場住民課）

特別保険証の交付お知らせ

国保加入者が旅行、出張、出かせぎ、その他の理由で住所を長期にわたり離れる場合においてはそのものに対して特別に保険証を交付することが出来るようになりました。必要とされる方は申請の上交付を受けて下さい。

（住民課）

なぎさ

父親の権威

この間、学校のPTAに出席した際、こんな話が出ました。

それは、「男の人たちに、もっと新しい教育について勉強してもらいたい。PTAといえば、母親が行くもので、父親は酒の出る時に出られれば出るくらいでたくさんだ、というような考え方は早くやめてもらわなければ、子供がかわいそうだ。」……こんなお話だったと思います。

私もこれには同感でした。

だいたい父親は家の中で何事によらずいちばん物の解ったものとして扱われていますが、こと教育のことに関しては次第に母親の考えよりも遅れつゝある現状ではないでしょうか。

なんといっても母親は自分のお腹をいためた子供のことゆえ、できるだけ都合をつけてPTAに出ようと考えますが、父親の多くは一般に世の中のことは一応何でも知っているという考えであまり出たがらないそぶりが多く見られがちです。

そのために、父親と母親との意見が合わず、最も困るのは子供です。

家庭での実権を握っている父親の威圧を強く感ずる一方、学校で教えられている民主教育とはおよそかけ離れた封建的な態度の父親に対して反ばつを抱くのも無理ないと考えます。

親の権威はどこにあるかといえば、なんといっても成人として未熟な子供に対して、範を垂れることができるというところにありましょう。

ところで、いくらいばってみたところで、それが道理にはずれていることがはっきりすれば、いくら子供とはいえ、納得できずに問いつめることは当然です。そこで、黙ってしまえばまだよいのですが、やゝともすると学校の悪口や、先生への文句、あるいは現在の教育に対する批難といったことになり、子供に対しすべてに不信を感じさせるもとを作りがちです。

それが、父親の偉さを示すことになるかといえば、そうではありません。敏感な子供は、父親の強がりやごまかしをすぐに見破り、かえって「石頭のがんこおやじ、頭が古くて話にならん」として、以後しだいに頼りにせず、相談も持ちかけなくなるに決まっています。

こうならぬよう、ぜひ二回の中の一回は――いや三度の中の一度くらいは酒がなくとも父親に出てもらい、子供からはもちろん、母親たる妻からも「さすがはわが家の代表者、わが家の象徴――」と安心して家族員がついて行けるだけの教養を積んでもらいたいと念願してやみません。

おわび

先号第一面の絵の所に画題、製作者名（「風景」城丸明男氏）が脱けておりましたので、つゝしんでおわび申し上げます。

サークル制に青年団活動を

小須戸町青年団

ここ数年よく耳にする言葉の中に、青年団活動のゆきづまりなどということもある。こんな青年団活動から脱皮して青年団活動を前進させようと、小須戸町青年団では今までの青年団組織を全面的に解体し、各団員に自主性を持たせることを中心としたサークル制に切り変えることを五月臨時総会に決め、今後の小須戸町青年団活動に拍車をかけることにして、今年の活動へすべりだした。

今までの組織

三十三年十月にできた小須戸町青年団組織は、当時のモウラ的青年団でもあったが、三部門委員会制をとっていたのである。

◎文化委員会
主として団員の学習的な部門であった。

◎体育委員会
団員の体育を主とした委員会

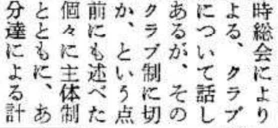
◎レクリエーション委員会
ここは全団員を主体とした健全娯楽を計画していた部門であった。

またこれら委員会は全団員のために事業の計画立案をし全団員に協力してもらうことであった。だからわりに団員の声が聞けないのもあったわけで、こんなところにも不活発になった点があると思われるところもあった。こんなことからモウラ的組織より、自分達のやりやすい組織を作ろうということになったのである。

現在作られた組織

今回の臨時総会により本部原案による、クラブ制度の問題について話し合ったのであるが、その内容はなぜクラブ制に切り変えるのか、という点については前にも述べたように団員個々に主体制をもたせるとともに、あくまでも自分達による計画であり、自分達の事業であるということを認識させるとともに、今後の活動は青年、われらのものであるということである。

役員組織の点については今までの役員（団長、副団長、事務局長、理事監事）等はそのままとして、支部での役員（各委員会の役員）は無くなったわけであり、支部長だけは存続するのである。だから新しい組織というものは次のようになる。



サークル内容も

文化部門
商業クラブ
美術クラブ
書道クラブ
茶道クラブ
図書クラブ
政治研究クラブ

体育部門
野球クラブ
卓球クラブ
羽球クラブ
排球クラブ
籠球クラブ
芸能クラブ

等十一にのぼるサークルを考えており、団員は二つまでの加入をみとめるようになっている。これは一応考えられる活動体であるが、活動によりは多くのサークルが生まれてもよいし、また同一系統のサークルは統合してもよい。

これらが今回承認された町青年団新組織であります。しかし今後にのこる問題も数々あるようだがまず考えられることは、経費の点であります。現在の団員一名年一二〇円の会費と少々の事業収入では絶対といってよいほど、予算不足がいわれるし、またサークル同志の分裂が一番の不安だ。だがこれらの点は団員の協力でなくすることができると思う。いま一つの問題は会場の点で、現在でも町公民館は毎日の使用でありサークルが多く増えた場合、とても公民館だけでは十分でないこと、これは各関係機関にお願いもする点もあるが、学校、保育所等の開放もお願いしたいものである。以上のような点で小須戸町青年団は活動に入ったのでありますが、ここに各方面の御援助と御協力をお願い致したいものであります。

有線放送に大きな期待

”新農村建設”今年度事業計画

新農村事業も三十五年より実施され、すでに共同集荷所、暗渠排水、肉豚貸付と、それぞれ完成し所定の補助金も全部交付され、いよいよ三十六年度事業計画を左記の如く決定し、申請する段階となった。これらの施設が年ごとにその真価を発揮しようとしている。きたるべき新しい村づくりの指針ともなって生長して行くのも農村の一つの支流とでもいえるであろう。

◎三十六年度事業計画

○鎌倉苗代田の暗渠排水
事業量　四、四町
（四十四ヘク）
事業費　一〇八五千円

○農協有線放送施設
全事業費
一二、五三万円
右補助対象本部施設費
七、五四六千円

暗渠排水、等その他についてはいうまでもないが有線放送については昔ながらの足の連絡をとるという、時間のかかる不経済でしかも効果のあがらない非文化的な連絡方法を、近代的な有線放送による連絡に改めて、随時適切な農林業に関する経営及び技術の改善、生活改善、その他の重要事項を一斉放送によって連絡し、地域内の老若男女を問わず全員に周知徹底せしめて、一家一心、一部落一心、一地域一心とし各種の事業を合理的に且つ円滑に推進地域内農林業の生産性の向上を図り、併せて文化的な明るく住みよい生活環境を造ることを目的としている。

凡そ、明るく住みよい生活環境というものは不平不満のない、明るい郷土の上にこそ初めて生まれるものであり、このような理想郷の生まれる基礎は、相互の理解に基く隣人愛の精神、協同主義精神によって固く結ばれて初めて創造されるものである。

この施設は農林業に関する各種の指導連絡および普及その他の連絡を通じて、地域内の農民および各種団体が一体となった新しい町、村づくりの基礎をつくろうとするものである。

こんな沢山のグループが思い〜に楽しく

グループめぐり（まとめ）

A子さんの投票もあり毎号この欄には当町内に数多く作り上げられている大小さまざまなグループ、サークル等紹介してきました。まだ多数のグループがあるのですが、紙面その他の都合で今回でいったん終り、また紹介するサークル等の希望によって広く町民のみなさに知らせたいと思います。また今迄に紹介してきましたグループは次の八グループであります。

おしどり会（横川）
この会は農村にできたもので、若い夫婦そろつて集まり、農村問題、家庭生活問題等十五組の夫婦（三十名）で話し合い研究し合いまた年令も二十代と今後の農村の中堅となる人達のグループです。

おんどり会（横町）
これはまた変わったグループで男子だけの会です。オヤジさんの親睦と研修が目的であり、オヤジすなわち自分達の再教育でもあるようです。

友の会（町部）
これは料理の実習研究グループであります。どこの主婦でも考えまた望んでいることでしょうがやすく、おいしく、栄養があり手間のかからぬ料理はないものか。こんなことから研修グループができ、現在ではハイカラな料理が食べられるようになつたという。主に主婦を中心としたグループです。

五月会（町部）
家庭の主婦達は学習の時間がとれない、これでは時代からも、また夫からもとりのこされてしまう。子供達にも負けないように学ぶという、お母さん達のグループ。

ふたば会（町部）
このグループは未亡人ばかりの集まりです。母親だけの家庭の子供の教育や自分達の生活の合理的な方法など、おたがいに相談、研究しています。

サンデークラブ
料理グループです。「友の会」と同じようなグループですが、この会は二十代の人達のグループで、やはり月一回の実習と研修を持っています。

木曜会（町部）
小須戸町を中心として楽しい立派な町に、一生涯を貫く仕事をもつことが最大の幸福であり理想と集まつた人達で、経済問題、商店経営等の研究グループです。

メンドリ会（横町）
五月会と同じようなグループでありますが、この会は生活にむすびついた実習研修会を中心に考えています。会名も初めは「秋葉会」でしたが話合いにより、「メンドリ会」と改めました。

以上は先号まで紹介してきましたグループですが、この外に存在している町のグループがありましたら紹介しようと思いますので「広報」編集部（公民館内）までお知らせ下さい。

火の用心
ださぬ用心
けす用心

連青役員決まる

小須戸町連合青年団三十六年度役員は次の通り決まりました。

団長　星田　金雄
副団長　五十嵐邦夫
〃　上田　ギン
事務局長　三浦源三郎
会計　栗林　毅
会計　広川マスエ
教育委員長　長沢　善薫
体育委員長　武沢　昇平

社会見学は三川鉱山へ

公民館主催の社会見学は、刈羽郡高柳村岡野町の八勝十景、京都風の秘園である〃貞観園〃を六月中旬頃と五月十日の審議会に話し合いましたが、都合により、三川鉱山に変更いたしました。

ここは最初でありますが、鉱山が近く廃鉱になるという話しもあり、最後の見学場所になると思いますので、ご希望でしたらこの機会にご参加ください。

期日　六月十七日
会費　五〇〇円
中食　各自持参

くわしいことは、おって回覧板、ポスター等でお知らせいたします。

精密機械と取り組む人たち

産業めぐり（その四）

身近な品物を作ってるい工場

加藤製作所

今回は日本でも珍しい産業を紹介しましょう。

ここではミシン部分品の送り歯（布送り）を主として作っています。布送りの種類は家庭用を始め工業用、それに最近ではジグザグミシン等全部で八十種位です。戦後新潟県下に数社が布送りの生産を始めましたが激しい経済界の変動で現在は国内でも東京と松江とここの三社だけだそうです。しかも国内生産高の八〇〜八五%をここで占め、ミシン業界では送り歯の加藤製作所として広く知られているとのこと。これら納入先は国内のブラザー、蛇の目、リッカー、重機、日立等の一流メーカー全部と海外には米国のシンガー社、西独のジユミット社等の主要メーカーにまでおよび、その他東京、大阪方面の問屋を通じ中近東、南米、アフリカ方面等へ輸出されているもようです。

現在の月産は二十二万台分位で、この線も、最近メーカーの増産計画および輸出の増加等により三十万台の生産に引き上げなければならない状態になつてるそうです。この業界でも非常に好不景気の波がありますが、ここも幾度となくその苦難に会いつゝも現在のような業界に不動の地位を築きあげたのは社長を中心に従業員が一体となつて努力した賜物といわれています。

生産は二百数十台におよぶ各種工作機械と百三十人余りの従業員によつて日夜続けられ、各注文先の要求により種類も異っていて、精度要求に応じるため機械はすべて精密な治工具（道具）による単能機および、自動機が設備され、従業員に女子の比較的多いのは、一部を除きほとんどの作業が単能機および自動機で単単な一連の流れ作業になっているためとのことです。

材料から製品に仕上がるまで三〇〜四〇工程位になつていますが、各自の受け持ち作業を理解し忠実であることによつて、円滑に生産計画が進められてゆく一方、たえず作業法、治工具類の研究改善につとめ品質の向上と増産を計つている様は冬の寒さと雪の重みにじっと耐えて、春を待つ竹に似た忍耐強い町民性と、昔から栄えた機業によつて培われた手先の器用さが非常に好影響をもたらしているようです。燕市の洋食器が世界中の家庭の台所用品としてゆき渡っているように、世界中の家庭、縫製工場にあるミシンに私達の町工場から生まれる「布送り」がとりつけられ小須戸町の特産品として知れわたるのも、程遠くはないとのことです。この外数種の機械と部品等案外身近にあるところの品物で、しかも時代に沿った製品を作っておりますが現在、工場設備の改善による品質向上、および増産と従業員の福祉厚生施設の向上とを目標に、町民のみなさんの理解と協力、それに従業員の一層の努力により、ますます業界に進出してゆきたい、と工場長は語っておられました。

六月末日限り

設備近代化資金

県では昭和三十六年度の中小企業振興資金および中小企業設備近代化資金の借入申込を三月より六月三十日まで受付けることになっており、対象業種、対象設備等一覧表申込用紙は町役場経済課に備付けてありますので、昭和三十六年度において設備の近代化を予定され、この資金の貸付申請をしようとする事業所は申し出てください。

（対象業種は県内に工業事業場を有している中小企業者で同一業種に引きつづき三年以上の営業経歴を有する生産、製造加工業を営んでいるもの）

尚詳細については役場内経済課、または商工会におといあわせ下さい。

購入図書

◇秋田の民話　瀬川拓男
松谷みよこ
◇あぶれ二十四孝　河盛好蔵
◇家庭でできる病人食　東京都病人栄養研究会
◇庶民の発見　宮本常一
◇月を消せ　藤沢桓夫
◇銀の川　水上勉
◇ノイローゼ、不眠症の治し方　大瀬渡
◇赤い影法師　南国群狼伝　柴田錬三郎
◇熱血社員第一歩　竹森一男
◇暮らしの図書室　子どもとともに　執筆代表　玉井収介
◇三味線無頼　佐々木杜太郎
◇午後の遊び　榛葉英治
◇新吾十番勝負㈠　川口松太郎
◇二十歳の設計　源氏鶏太
◇気まぐれ夫人　中野俊介
◇女の幸福　藤沢桓夫
◇自由連想　菊村到
◇ハスキル人　高木彬光
◇世界の歴史　第一巻　歴史のあけぼの　筑摩書房編集部

おくやみ

自四月二十一日
至五月二十日

下興野　加藤　ミナ
矢代田　阿達　玄太
〃　新井田作次
上田町　木村　駒吉
新保　川瀬　鉄平
横川　横山　ヨシ

新樹句会

小須戸町俳句同好会

永き日を抱卵の雞動かざる　水月
訛りつゝ早乙女降りる終いバス　越楼
街路樹に来て青嵐揺れ通る　竜朗
葉桜や一年生は早や放課　虚秋
今朝晴れて苗田の水が澄めるなり　香月
まだ伸びぬ葭の葉に鳴く行々司　一陽
草に牛寝かせておみな早苗取　流水

訂正
虫くれの如く蛙の穴出づるは誤り
土くれの如く蛙の穴出づると訂正　渓灯